日本政治基礎　十月十六日　　Copyright：Takumin

先週休みがありましたのでちょっと伝えたいことがあります。一つはまぁ先週先々週から授業の要望がありましたが日本政治に関する一通りの知識を得たいとか阿部さんがどうなるかしりたいとかかいてくれましたが、まぁ瑣末なことですが、授業のスライドを分割コピーしたいとかありましたが、そのやり方について。四枚のスライドを一枚にやるんですが、プリンタの設定でこのようにいくらでも変えられますのでわからない人はプリンタ設定でその中に私の場合は割付印刷なんかでしたかね、ありますからまあいろいろ試行錯誤しながらやってほしいと思います。二番目ですが、スライドは法学部ホームページに掲載するので ID のほうやパスワードを設定しましたが、教育支援システムが keio.jp にありまして、ここに教材を入れておくことができますので、早速そこにもアップロードしてあります、どちらでも結構ですので必要部分を印刷してください、できるだけ授業は予定通りに進めたいのですがこの後話しますが公務での休講、授業によっては進み具合が遅かったりしますので多少の変動がありますので。印刷量は考えてください。それから keio.jp の中には掲示板がありまして、掲示板を作ってくれというのがありまして解説しましたのでいいたいことがあったら書き込んでください。

レポートについて先々週に話をしましたがこの授業を昨年度からの積み残しの方がどのくらいか、百人はいませんが八十人とか九十人とかいまして、積み残しは良くないのでレポートを出してもらいます。掲示板のほうには法学部のほうに張りましたが、教育支援システムには欠いてありますが、

レポートタイトル　自由(任意)レポートの提出について
履修学期　通年＆秋学期
科目　日本政治基礎
授業担当者　大山　耕輔
内容　日本政治基礎の単位取得が学期末試験と出席(クイズ)だけではむずかしいと自覚する履修者は、下記の要領でレポートを作成して提出してください。加点方式で評価します。

①テーマ=日本政治の課題とその解決方法について、あなたの考えるところを自由に述べてください。たとえば、日本政治の不透明性を解決するために情報公開法の運用強化は効果があるかどうかを調べてレポートするとかです。

②字数=4,000 字以上、A4 用紙 1 枚に 30 字×40 行(=1,200 字/枚)で印字すること。手書きの場合は原稿用紙を使用すること。図表含む。

③〆切=11 月 30 日午後 3 時。

④提出先=学事センター法学部係のレポートボックス。

⑤注意事項=友人のレポートとの切り貼り行為は不正行為とみなします。また他のサイトからの引用は必ず注記すること。　以上。

上のようになっています。

参考書について、村松岐夫「日本政治変動の三十年―政治家・官僚・団体調査に見る構造」とい

ったのがありますよということ。休講のお知らせ、十一月の十三日は休講です。法学部の業務が三田でありますので授業をすることができません。

4、相互依存時代の日本政治1

相互依存というキーワードで日本政治を捉えるべきだといっているわけですが、国際関係は相互依存をしてきたわけで、複雑化してきたわけです、それぞれの各国の政治過程が重なり合ってくるということで、互いに影響しあうとかいうことになってくると政府間関係についてもこれまではリアリスティックな理解が多かった、戦争とか国益、外務省といった国益が互いに衝突してしまうと戦争にいたるとか外交分極による外交という風なものが単純な国益の衝突よりもむしろ経済の衝突民間レベルの結びつきなどあるわけで、外交をする役所は外務省だけでなしに農水省やこっこうしょう、けいさんしょうも相互依存する。安保政策を見ていれば国際関係がわかったんですが、今は貿易、経済、貿易摩擦がひところ言われて経済的な関係というものが重要になってきた、安保も相互依存的に見ていく必要が出てきた、で、そういう国際関係を演じるアクターというのも国家や政府だけでなしに団体などの主体が出てくる、INGO,インターナショナルノンガバメントオーガニゼーションというんですが、それの国内版もありまして、また、そういう団体の一つが多国籍企業、日本企業の中にもソニーやトヨタなど本社が二本にあるだけで製造工場が中国や米国にあったりするわけで、そういうのは多国籍企業になるわけで、そういう企業は政治の場面でも重要なアクターとして演じている、エスニック集団、民族集団のようなもの、テロリスト集団も国家と並んで重要な影響力を持つようになりました、環境分野ではその運動をしている団体は大きな影響力を持つようになりましたし、相互依存時代の政治というのはいろんな民間の団体、企業というものが大きな位置を占める。国際政治が相関関係になるという相互依存の時代に入ってきたとテキストで主張されている。

スライド展開

この図は大変面白いんですが、紹介します。まあ山本先生は灯台の教養学部の先生で、二つの国がこkではあるわけですが、これがここにあるのが一つの国で点線で影響を与えている国がありまして、それで、影響を受けている国というのは核になる国という国がありまして、それをいくつかの宋が囲んでいて制度政策国境調整措置、そういった同心援助にある国の様々な仕組みというものが相互依存の時代では近くにある、関係の深い国の影響を受けてくる、仕組みと仕組みが浸透しあう、そうすると同心円状の仕組みというものがだんだん消えてくる、外側からその国独自の仕組みというのがなくなってくるというイメージ。国ごとの違いがなくなって違いがなくなり、政策の独自性がなくなり、核だけがのこる、それが裸の国家、例としてまあレジーム論。最近はwto,GATT とかは、国境調整措置、関税障壁など、それぞれの国が時刻の農業とかを守るために他国の農産品には関税をかけるわけですがそんなことをやるとガットのような国際協調に反してしまう、やめようというのが国際レジームの考え方。欧州連合のような政策協調がみられているとい

うこと。

スライド展開
この図も同じことを示していて、相互依存が進展すると国家機能というのが左から右に移動してくる。いろはとありましていの部分は撤廃する、独自の仕組みをやめていくと、例えば縦軸は相互依存の進展による進化ですが、国境調整措置、政策、制度というのが上から下に焦点が移っていく、国際協調が進んでいくと関税、為替の管理がなくなっていく、欧州のユーロのように、いぜんはフランスもドイツも独自の通過でしたが、為替や関税は撤廃されてきた。政策協調では輸入基準とか自由貿易というものを深めていくための障壁をまああわせていこうというそういうこと。で、そういうようなことをやっていく上で残る特徴は移民法、人の移動に関する法律、そういうのが入国管理法も入りますが、そういったのが最終的なところまで残る。農業補助、産業政策なんかは EU なんかで撤廃を迫られています。常に問題になりまして、財政政策とかもサミットとかで強調が求められていまして、独自性は社会保障、社会福祉とかに残るわけでして、それから国内の制度、仕組みとしてかなり多くのものが協調の対象になりまして、銀行制度、知的所有権、税制についても政策協調の対象になってきています、最終的に独自の制度として残るのが税制、残るものの一つにもなり、通貨の発行県、これは EU の例もありますが、それでも独自の通貨圏はまだ持っているということ。相互依存というものが日本政治に対してどの γ 脳名影響を与えているかというのをイメージしてほしいのですが。

スライド展開
4. 相互依存時代の日本政治3
　これは内圧と外圧というキーワードを用います、アメリカという国は内圧投射型という表現を使っていますが、人口が二億四千万、元気な国民性の国でして、政治過程にいろんなアクターが登場していろんな主張をしている、内圧自体が大きい。しかし日本は逆に外圧に反応するタイプの政治です。これはアメリカの影響と置き換えてかまいませんが、アメリカがどう出るかというのが決定的に日本政治のあり方を決めていくと申し上げていいです。対照的な内圧投射型政治なのか外圧反応方政治なのか、厳密には内圧が威圧両方あるわけで、それを調整する政治が多いんですが、日米はその違いがよくわかります。それ以外の特に民主主義でない政治というのは内圧というよりは更に狭い政府主導型の政治、政府を支配している勢力がそうでない人々を支配している場合が多いわけで、せいふしゅどうがたのせいじとわけられるんですね。内圧外圧というのじたい相互依存が深まったということなんですが。
これで二章が終わりです。

第三章日本政治分析の作法

1　社会科学の方法と政治学

現代日本政治の分析を進める、今までは評論が多かった。参照の趣旨ですが。リヴァイアサン、これはホッブズの著作ですが、日本語では怪物ですが、この本、雑誌が出ていまして、現代日本分析の実証分析を発表する本で、で、この著者がこのテキストの編集者なんですが。レフェリー制の論文でして、匿名のレフェリーが雑誌に載せるかを判定する。

今行ったように評論的な日本政治論、批判や解釈は自由に提示されるべき、前までは右か左可のイデオロギー論争がありましたが、これは意味がないのではないかという私的だったんですね、分析を盛んにするには多様な視点が必要で、多様な日本政治論、実証をすべきとした。日本政治は他国政治と違う、日本特殊正論というのがありますが、そうではなくて、例えば比較政治学のような立場でほかの国と比べて違うとかに照るとかを実証的に明らかにしていくほうが実りが多い。世の中の人にしても役に立つということを言うわけです。そして五番目に他国の日本政治研究者との共同研究を進めるべきだということ。欧米にも日本研究者がいるわけで。仮説提示型、なぜそれが起きたのか、発生したのか、その原因はこうじゃないか、こうなったからこうなるのではないかといった仮説、因果関係の原因を仮説として提示して実証していくという科学的な試み。

スライド展開

で、社会科学、として政治学を見る場合にどういったものがあるか、まあ一つは帰納的な方法、観察をして一般的に何がいえるのか、機能的な方法、そして仮説演繹方、演繹で持って推論をしていく、前提を明らかにして結論を証明していくという仮説演繹方、そして意味解釈方、因果関係よりは現象がおこって、その原因をあきらかにするということよりはそういう問題や現象が持っている意味についてどう解釈するか、これを議論するというもん。三つあります。仏性、アリバイ、動機、犯人割り出しのそういったたとえ、比ゆが当てはまりますが。それから関連して富永研一という社会学者が日本特殊正論を批判した灯台の社会学者ですが。方法的な問題点として一つは現象一つ一つを記述していくと、現象を欠いているだけで現象がおこった原因を明らかにしていない、そして了解モデルというんですが、日本人の中で了解しているような考え、日本人同士で意味がわかっているのが日本政治なんだという内輪の了解モデルというのを研究しているだけなのか？欧米の研究者にもわかるように理論を作るべきだという考えなんですね、ブラックボックスも出るというのが、これは例えば日本の政治、日本の政治、政策決定過程というのを、黒い箱、そこに光を当てて明らかにする、日本の政策決定課題とは何かをあきらかにするということが日本政治をじっしょうぶんせきするということになってくる。明らかにするということが重要、了解モデルよりもブラックボックスモデルの方に力を入れるべき

スライド展開

3．1

この日本政治の了解モデルとは何か、丸山さんの本ですが、非常に影響力が大きいんですが、大変インパクトが大きかったんですが、それだけに問題も多かったというのが現在の感想でして、丸山さんたちがどういう問題意識を持っていたか、これは日本の前近代的な状況、欧米より遅れ

ているという問題意識、近代化されて市内日本の政治をどう改革するのか、近代化エートスといわれていたんですがこれがありまして、日本は欧米からはるかにおくれているんだ、市民革命がない、市民が確立していないという理論。そしてこの丸山さんが影響を受けたのが経済学では大塚久雄さん、方角で言うと川島たけよしさんというようなひとたちで、このひとたちも近代化エートスの人たちなんですね。日本政治の意味、解釈、日本人にしかわからない日本政治の特質とは何かを研究していた人々、建前と本音、とか親心とかいった、なんとなくにほんじんにわかるようなタイトルも多いんですね。こういうものを日本的な言葉で語ったときに外国人にどうわかってもらうのか、壁ですね、もし外国人にわかるような議論が提示できれば内輪の了解ではなく、グローバルな了解が得られるのではないかということですが必ずしもそうではない。こういう人たちはある程度都市の行ったヒトデ、古い人たちですが、そこで若い世代といっても定年真じかですが、京大の人が本を書きましたが実証的で財界とか業界、そういう団体の持つ影響力、日本の政策決定過程におけるそういった団体の影響力これを実証分析した本でして、この辺から政治学、日本の政治学も変わってきたといわれている。で、二番目に比較政治的な視点が日本政治論に必要という話。

スライド展開

3．2比較政治と日本政治1

そこで比較可能性、できる国というのがどういう国かというのを最初に書いてありまして、三つあるんじゃないかということ。一つはアメリカイギリスフランスのような先進諸国のグループ、二つ目が敗戦国のドイツイタリア、三番目がアジアの新興工業国、台湾韓国タイ中国、そういったアジア地域の国と比較してみることができる、そうすると比較を通じて様々なもの、人口とか歴史とか文化とか民主主義の程度とか、そういうものが比較することによって日本がどの程度なのかが見えてくるわけですね。

スライド展開

3．2　2

日本政治を特徴付けようとしているわけで、何が日本の特徴国なのかを比較対照国との比較の中で特定していこうということ。比較の中で日本政治を位置づけるというのは数が好くない、いくつかはありますが。古い作品が多い。いずれも外国人の日本政治研究者、日本人のほうから比較方法を用いて研究を指定校というのが考え。

3．3

で、ここから来週はモデルの話をしますが、ちょっと抽象的でわかりにくいという話がでてきます、分析を進める際には、やっぱりなんというか理論、セオリーといわれると数学的な体系があるものをイメージしますが、そこまでいかなくても、モデルといわれるような簡単な理論を使って分析をする、進めるということが大事だということ。モデルというのはここでいうように模型なわけで、プラモ

デル。模型というのは現実にある電車とか飛行機、船とか車とか、現実の物体をですね、縮尺を加えて小さくしてしかし模型を見ることによって現実の物体がどうなっているかがわかるわけです、実物でなくても実物がわかる、同じように日本政治を見るときにも日本政治のモデルがあればモデルを理解することによって日本政治がこうなんだというのが理解できてくるわけです。簡単な理論とか現実を模写したものというモデルが分析する際に大事になってきます。社会科学ですので、人間とか社会は複雑ですので、わからないことがおおい、モデルといったところで日本社会のモデルはたいしたものもできないわけです。全て不完全なわけで、しかしあえてなんらかのモデル、理論がないと、日本政治という大きな怪物をりかいすることができないんじゃないか？これが著者の主張なわけで。モデルが大事という話をしていたわけですが、モデルというのは懐中電灯であったりなたやおのであったりするわけで、先ほど機能型演繹方といいましたが、それを少し別の言葉で言い表しているので飛ばしました

モデルとか理論とかものの見方考え方と現実の政治、これとの行ったり着たりの作業というのは大事で、こういう見方で日本政治をみているけど、この見方では本当に政治が見えるのかというようなことを絶えず見て、省みていく、著者もその作業が必要だと訴えています。で、

3, 3, 3

現実とモデルの行ったり着たりの作業よりも、欧米の政治学を輸入してきた歴史で、明治以来、明治の近代化開始と共に西洋諸国から概念、モデル、理論といったものを戦前はドイツ、戦後はアメリカやマルクスなど、自分で考えた政治理論というのは本当にあるのか、輸出できるような政治学が存在するのかということが大きな問題でありまして、

スライド展開

政治学批判、法律学的な制度論、法学部の片隅に置かれていたということ、民主主義的な啓蒙議論、政治史が中心になっていた、制度を輸入するような学問だったということ。
アメリカ政治学の影響が大きくなると 60 年代半ばですが、アメリカ政治学が爆発的発展を遂げまして、政治行動論という分野がありまして政治行動こそが政治学的な実証研究の対称になるという立場でそれが日本政治を実証するというのに結びついた。現実と学問の緊張関係が必要であるという言葉。

3. 3. 5

アメリカの行動論が主張されましたころ、行動論批判が盛り上がりまして、むしろ制度が政治学では重要ではないか、国家論とか規範、ルール、政策、歴史というようなもの、そういうようなものに政治学が際注目しまして、新制度論といいまして脱行動論ということですが、行動が制度を見失っていたわけで、先へ行こうというそういうもの。方角的な政治学に復帰するということではない。まあ相互依存が深まってきたわけでアメリカ政治学への批判が出てきた。新しい制度論というの

が最近は言われていますが、結局行動論批判のかけていたところを補うような形で政治研究を広げていくようなもの、と著者は評価しています。日本政治のモデルに何があるかを来週やリンス。